

「連合兵庫政策・制度推進フォーラム」へ、「会場」ならびに「WEB」でたくさんの皆さんにご参加を頂き、感謝申し上げます。

また、皆さんの、連合運動へのご理解とご支援に感謝申し上げますとともに、それぞれの立場で、働く者・生活者の立場にたった「安心社会の実現」に、日々奮闘されていることに敬意を表します。

1月1日の能登半島地震から間もなく一か月が経とうとしています。亡くなった方々に謹んで哀悼の誠を捧げます。怪我をされた方々、住む家を失った方々、避難を余儀なくされている方々に心よりお見舞い申し上げます。そして、安否不明の方々の救出を切に願うばかりです。

先般、被災地の復旧・復興を願う連合兵庫組合員の思いを込めて、連合石川を通じて義援金を送りました。そして、いま全国の連合の仲間とともにカンパ活動を展開しています。今後のボランティア受け入れ状況も見極めつつ、でき得る限りの支援を行って参りたいと考えています。皆さんのご協力をお願いしておきたいと思えます。

また、6434名もの尊い命を失った阪神・淡路大震災から、本年29回目の1.17を迎えました。兵庫県では、震災の経験者が年々減り、震災を知らない方が増えている現実がありますが、私たちが阪神・淡路大震災から学んだ教訓は、今後、いつの時代にも通じる「知恵」です。

連合兵庫、連合兵庫フォーラムに集う全員が、それぞれの持ち場立場で、阪神淡路大震災から学んだ教訓を、忘れない・伝える・活かす・備えるを実践し、命を守る減災の取り組みをすすめることも、あらためてお願いしておきたいと思えます。

さて、連合は、2019年、結成30周年を機に、2035年の社会を展望した中長期の運動と政策の羅針盤としての「連合ビジョン：働くことを軸とする安心社会-まもる・つなぐ・創り出す」を策定しました。

そして、その実現に向けて「働くこと」につなげる5つの安心の橋、「学ぶことと働くことをつなぐ」「くらしと働くことをつなぐ」「働くか

たちを変える」「離職から就労へつなぐ」「健康・長寿社会をつくる」の5つの橋と、加えて「働くことを軸とする安心社会を支える基盤」を整備していくことをベースに、構成組織・地方連合会・連合本部が議論を重ね、労働者・生活者の求める声を結集し、「政策制度・要求と提言」としてまとめています。そのうえで、連合本部は、政府をはじめ各政党への要請行動を展開しています。

また、しばらく途絶えていた「政労使会議」も、昨年3月に再開され、11月と今月は、経済好循環にむけての賃上げ・価格転嫁の実効を上げる観点などに関する意見交換が実施されました。

政労使会議は、労働者・生活者の求める声の実現への取り組みとして、意義ある場だと私は思っています。

一方、連合兵庫も、ご案内のように、対県、対労働局への要請を実施しており、先般労働局との懇談の場を持ち回答をいただくとともに意見交換会を実施してきました。兵庫県からも、2月を目途に回答が示されると思います。

また同様に、市町に対しては、各地協から政策要請を行っています。

今日は、連合兵庫および地協の取り組みは割愛させていただきますが、連合としての政策実現の取り組みについては、後ほど富田総合政策推進局長からお話させていただきます。

そしてその後、桜井シュウ衆議院議員から、国政報告をしていただくことにしています。

富田総合政策推進局長、そして桜井衆議院議員、本日は、宜しくお願い致します。

本フォーラムは、連合の政策制度の考え方の共有と参加者相互の情報・意見交換の場であります。第2部の懇談の場も含め、連合の政策実現にむけて、有意義な場となりますことを祈念し、主催者挨拶とします。

以上